



Cross-Cultural Views on Britain



Copyright © 2014

by

Richard H. Bent

Tetsuya Iseki

Reiko Iseki

All rights reserved

No part of this book may be reproduced in any
form without written permission from the authors
and Nan'un-do Co., Ltd.

はじめに

本書は、イギリス文化の特質を楽しく学びながら、特にリーディング能力、およびライティング能力を向上させることを目的とする英語学習教材です。イギリス文化理解のためのさまざまなトピックスを、「日英比較文化的視点」から論じた書き下ろしのエッセイと、その理解力を増進するための練習問題とから構成されています。

イギリスと日本との間には浅からぬ交流の歴史があります。その最も身近な例のひとつが、両国の「郵便制度」です（本書第1章参照）。日本の郵便制度は、明治時代、イギリスから導入されました。当時のイギリスはすでに世界初の郵便切手を発行しており、全国規模の郵便制度をスタートさせていました。かつて、日本のあちこちで見られた「赤い、円柱型郵便ポスト」は、実は、イギリスで生まれたものです。他にも、サッカー（フットボール）やゴルフ、ラグビー等の多くのスポーツをはじめとして、私たちの身近にあるさまざまな「もの」が、イギリス発祥であることを、みなさんは本書において発見されるでしょう。

イギリス文化について考えるとき、まず、念頭に置いていただきたいことがあります。日本語で通常「イギリス」と呼んでいる国は、正式には「グレート・ブリテンおよび北アイルランド連合王国」《“The United Kingdom of Great Britain and Northern Ireland”》、つまり、「イギリス」とは、イングランド、スコットランド、ウェールズ、北アイルランドという複数の地域から成る「ユニオン」（“union”）であるということです。このことは、本書の表紙デザインにも用いられている現イギリスの国旗、「ユニオン・ジャック」（“the Union Jack”）によって象徴されています。

「歴史の国」イギリスは、二十一世紀の今日もなお、2012年の女王エリザベス二世即位六十周年、同年に開催された「ロンドン・オリンピック」と「パラリンピック」、さらには、ウィリアム王子とキャサリン妃の間に誕生したロイヤル・ベビーと、数々の話題で世界の注目を集め続けています。本書で学ぶみなさんにとって、この一冊が英語力向上の助けとなるとともに、その学びを通してイギリス文化への関心が深まり、実際にこの国を訪れたという気持ちを抱いていただけるとするならば、著者にとってこれにまさる喜びはありません。

著者

本書の構成について

本書は全 15 章構成で、各章はそれぞれのトピックスについて「日・英の比較文化的視点」から論じた 400 字程度の書き下ろしエッセイと、それに対応する練習問題で構成されています。

1 VOCABULARY (重要語句)

エッセイ (“Read and Learn”) から 10 種類の語彙が選ばれています。あらかじめ日本語の意味を確認してから、エッセイの読解に進みましょう。

2 READ AND LEARN (英文読解)

イギリス人の著者が書き下ろした約 400 語からなるエッセイを読み、内容理解に努めましょう。

3 COMPREHENSION QUESTIONS (内容把握問題)

練習問題は、(1) True or False (2) Multiple Choice (3) Search and Find! の 3 種類です。

4 GRAMMAR FOCUS (文法事項の解説と練習問題)

文法解説を読んで、エッセイの英文で使用されている文法事項を確認した後、2 種類 (“Exercises A, Exercise B”) の練習問題を解いて、文法理解が十分にできているかどうかを確かめます。

5 WRITING EXERCISES (英語表現問題)

- (1) Writing Exercise A. (書き換え問題等、章によって形式が異なります。)
- (2) Writing Exercise B.: Free Writing (簡単な自由英作文) の 2 種類からなり、エッセイで使われている表現を応用し、英語表現力のアップをはかります。

ちなみに付記すれば、イギリス英語 (“British English”) とアメリカ英語 (“American English”) との間には、発音の他に、語彙や表現に関しても下記のような違いが見られる場合がありますが、文法的な相違はほとんどないと考えて支障ありません。

・ 同一物を指す単語の綴り (発音) が異なる場合

例) (米) among, (英) amongst, (米) theater, (英) theatre

・ 同一物を指す単語が異なる場合

例) ガソリン: (米) gas (英) petrol,
自動車のトランク: (米) trunk (英) boot

英語資格試験 (TOEIC など) では、2006 年の改訂において、リスニング部門に従来のアメリカ英語に加え、カナダやオーストラリア英語とともにイギリス英語が採り入れられました。英語の多様性に注目が集まる中、イギリス英語はある種のスタンダードとして、独自の威信ある地位を占めています。本書を使用する際には、イギリス英語の響きや表現を味わいながら、読解や聞き取りにチャレンジしてみてください。

CONTENTS

CHAPTER 1	The Royal Mail		
(通信)	イギリスの郵便制度	不定詞	9

CHAPTER 2	British Sports Everywhere		
(スポーツ)	イギリス発祥のスポーツ	動名詞	15

CHAPTER 3	The Beatles Forever!		
(音楽)	ビートルズの国	過去形・現在完了形	21

CHAPTER 4	From the Cradle to the Grave?		
(薬)	「ゆりかごから墓場まで」?	現在進行形	27

CHAPTER 5	Great Novelists		
(文学)	偉大なる小説家	助動詞 1	33

CHAPTER 6	History of the Royal Families		
(王室)	王室今昔物語	助動詞 2	39

CHAPTER 7	Pound or Euro?		
(通貨)	イギリス通貨とユーロ	自動詞・他動詞	45

CHAPTER 8	What is the Tube?		
(交通)	「チューブ」って何?	受動態	51

CHAPTER 9	Two - Party Politics?		
(政治)	議会政治と現代	使役動詞	57

CHAPTER 10	Art Collections in Britain		
(芸術)	イギリスの美術館・博物館	前置詞句	63

CHAPTER 11	New House, Old House?		
(住宅)	イギリスの住宅事情	名詞・冠詞	69

CHAPTER 12	Are British Foods Tasty?		
(食べ物)	イギリス料理は本当にまずい？	比較	75

CHAPTER 13	Newspaper, TV or iPad?		
(メディア)	情報は「活字」から	仮定法・条件節	81

CHAPTER 14	Public School and Hogwarts		
(教育)	「パブリック・スクール」の伝統とホグワーツ	副詞節	87

CHAPTER 15	VAT and Cons		
(税金)	「付加価値税」と「消費税」	関係詞	93

MAP
イギリス
ロンドン市内中心部
地下鉄マップ

CHAPTER 1

The Royal Mail

イギリスの郵便制度



近代郵便制度発祥の地がイギリスであったことをご存じですか？この章では、その歴史と日本との関係についてみてみましょう。

VOCABULARY

- | | | |
|------------------|---------|--------------|
| 1. available | [] | a. 横顔 |
| 2. recipient | [] | b. 円柱型の |
| 3. profile | [] | c. 提供される |
| 4. pillar | [] | d. 信頼できる |
| 5. hexagonal | [] | e. 六角形の |
| 6. cylindrical | [] | f. 改革者 |
| 7. commemorated | [] | g. 受取人 |
| 8. reliable | [] | h. 欠くことのできない |
| 9. indispensable | [] | i. 記念の |
| 10. innovator(s) | [] | j. 柱型の |

READ AND LEARN

Can you imagine having to pay postage for letters that people send to you? The Royal Mail¹ had been **available** to the public since 1635, and the system of sending letters meant that the **recipient** had to pay for the postage. In 1837, Sir Rowland Hill² decided to change that system with his idea of the Uniform Penny Post³. Thanks to his system, it became possible to send a letter to anywhere in England for one penny paid by the sender. Postage stamps, named Penny Blacks⁴ and decorated with a **profile** of Queen Victoria⁵, were used for the first time in 1840 and the number of letters posted in England doubled.

The popularity of sending letters led to the invention of the **pillar** box. Today, we can see the familiar red pillar boxes dotted around the United Kingdom where people can post their letters, ready to be collected and delivered by the post office. Pillar boxes were the idea of novelist and post office employee Anthony Trollope⁶, and they were first introduced on the Channel Islands⁷ in 1854. They were originally green, but became the standard red in 1874. They have also changed their shape; the early boxes were **hexagonal**, and **cylindrical** boxes did not appear until 1879.

In 1870, Japan's Meiji government sent Hisoka Maejima⁸ to England to study how the Royal Mail worked. After his return in 1871, the government followed his proposals for a Japanese post office and began to offer its own service between Tokyo and Osaka. The first Japanese postage stamps were introduced on the day the service began. By 1874, over 3,000 post offices had opened around Japan. Maejima is **commemorated** today with his portrait on one yen stamps.

Post offices in Japan and the United Kingdom offer many services. Both deliver letters and parcels, and are safe and **reliable** places to save money and to exchange foreign currency. In the United Kingdom, people also use post office to have their passport application checked before it is sent off, to apply for a driving licence, or even to request a fishing licence⁹! Japanese post offices offer health insurance, while UK post offices offer travel insurance.

The post office has become an **indispensable** part of everyday life for people in Japan and the United Kingdom. Thanks to **innovators** such as Sir Rowland Hill and Hisoka Maejima, we can easily stay in touch with people, both around the country and around the world.

Notes

1. Royal Mail: 元々の設立は1516年にまでさかのぼり、一般化はチャールズ二世による「王政復古」(Restoration, 1660)以降である。20世紀には政府機関であった「郵政省」(General Post Office)は2007年に解体、民営化され、Royal Mail (Holdings plc)という名称となった。 2. Sir Rowland Hill: サー・ローランド・ヒル (1795～1879)。1854年に郵政大臣 (Secretary to the Post Office) の職に就き、国営事業としての郵便制度の確立に尽力した。 3. the Uniform Penny Post: 「ユニフォーム・ペニー・ポスト」(均一料金導入による郵便制度) 4. Penny Black: 正確には1840年5月1日に発行され、ロンドン・バース(Bath)間の郵便に初めて使用された。 5. Queen Victoria: ヴィクトリア女王(1819～1901)は、歴代最長の64年にわたって在位し、植民地を拡大しつつ、国力を強化していった「イギリス帝国」(British Empire)の象徴的存在であった。 6. Anthony Trollope: アンソニー・トロロープ(1815～1882)は、もともと『救貧院長』(The Warden, 1855)など、特にイングランド西部の架空の州を舞台とする「バーセットシャー小説」(Chronicles of Barssetshire (6作品))で広く知られた、多作の小説家である。 7. Channel Islands: 英仏海峡南部に浮かぶ、ジャージー島、ガンジー島を合わせた5島ほかからなる。 8. Hisoka Maejima: 前島密(1835～1919)越後、新潟県出身。1870年(明治3)に郵便制度調査のため渡英、翌1871年に帰国後、駅通頭(えきていのかみ)に就任し、東京一京都一大阪間に官営の郵便事業を開始させた。 9. fishing licence: イギリスでは、ほぼすべての川について、「ライセンス」をシーズンごとに買う必要があり、海沿いでも私有地での釣りは要ライセンスとなる。

COMPREHENSION QUESTIONS



True or False

1. (T F) Sir Rowland Hill invented pillar boxes.
2. (T F) Hisoka Maejima studied the way English post offices worked.
3. (T F) You can apply for a fishing licence at a Japanese post office.

Multiple Choice

1. Whose idea was it to make English postal services cheaper and easier?
 - a. Anthony Trollope
 - b. Sir Rowland Hill
 - c. the Meiji government
 - d. Hisoka Maejima

2. Postage stamps were used for the first time...
 - a. ...in 1837.
 - b. ...in 1840.
 - c. ...in 1859.
 - d. ...in 1874.

3. Today, the postal services in both the United Kingdom and Japan...
 - a. ...offer travel insurance.
 - b. ...check passport applications.
 - c. ...offer health insurance.
 - d. ...offer currency exchange.

Search and Find!

How are the British and Japanese postal systems the same? In what ways are they different?

GRAMMAR FOCUS

「不定詞」

I . To 不定詞の名詞的用法

- ① To see is to believe. (見ることは信じること／百聞は一見にしかず)
- ② Sarah decided to marry him. (Sarah は彼と結婚することを決意した)
- ③ It is dangerous to swim in this river. (この川で泳ぐのは危険だ)

名詞的用法の to 不定詞は「すること」という意味を表し、主語 (①)・補語 (①)・目的語 (②) となる。「しないこと」と否定する場合は、not を to 不定詞の前に置く。主語となる to 不定詞は、一般に形式主語 it を立てた It is ... to.... の形が好まれる (③)。

II . To 不定詞の形容詞的・副詞的用法

- ④ I have a lot of assignments to do today. (今日やらなければならない宿題がたくさんある)
- ⑤ People stood up to see the parade better. (人々はパレードをもっとよく見ようと立ち上がった)

形容詞的用法の to 不定詞は、名詞句の直後に置かれて、「～すべき、～するための」という意味で、その名詞句を修飾する (④)。副詞的用法の to 不定詞は、動詞を修飾して「…するために」(目的) (⑤) や「…となる(結果)」という意味を表すほか、形容詞、副詞、文全体を修飾する機能を持つ。

III . To 不定詞の意味上の主語

- ⑥ To know is one thing, and to practice another. (知っていることと実行することは別物だ)
- ⑦ He promised to help me. (彼は私を手伝ってくれると約束した)
- ⑧ My father allowed me to use his car. (父は私が父の車を使うことを許可した)
- ⑨ For you to ask her would be better./ It would be better for you to ask her.
(あなたが彼女に頼む方がいいでしょう)

To 不定詞の意味上の主語は、文中に明示される場合とされない場合とがある。一般の人を指す場合、或いは場面や文脈から明らかな場合は、通常省略される。(⑥)。また主語と一致する場合 (⑦)、目的語と一致する場合 (⑧)、「for+ (代) 名詞」の形で明示される場合 (⑨) がある。

IV . To 不定詞を含む表現

- ⑩ I was shocked to hear the news. (私はその知らせを聞いてショックを受けた)
- ⑪ The boy was too excited to sleep. (その男の子は興奮しすぎて眠れなかった)
- ⑫ She is old enough to be independent. (彼女はもう独り立ちできる年齢だ)

・形容詞の直後に置かれた to 不定詞は、形容詞の意味によって、感情の原因を表す (「…して」: ⑩)、判断の根拠を表す、形容詞の適用範囲を指定するなど、さまざまな機能を持つ。

・To 不定詞の副詞的用法の慣用表現:

<too...to ~ > 「～するにはあまりに…で」「あまりに…過ぎて～できない」(⑪)

<...enough to ~ > 「～するほど…で」「～なので…する／できる」(⑫)

GRAMMAR FOCUS EXERCISES



A Complete the translations using the appropriate forms of the verbs given in the brackets.

- 目が覚めるとベンチの上で寝ていた。
I woke up () () myself lying on the bench.
 - 何か申告するものをお持ちですか？
Do you have anything () ()?
 - さらに悪いことに、彼は仕事を失った。
() () matters worse, he lost his job.
 - 彼らの批判は受け入れがたいものだった。
Their criticism was hard () ().
- [to accept / to declare / to find / to make]

B Fill in the blanks with the appropriate word(s) to complete the sentences.

- Ken ----- to hand in the report on the deadline date.
① enabled ② finished ③ managed ④ succeeded
- The weather ----- us to cancel the event.
① forced ② let ③ had ④ made
- How did she ----- to be recognized as one of the outstanding writers of today?
① become ② come ③ get ④ go
- The marketing manager's job is to ----- sales of the company's products.
① promote ② promoting ③ promotion of ④ be promoted

WRITING EXERCISES

A Follow the directions to rewrite the sentences.

- It is likely that wet weather will continue for a few more days.
(Wet weather で始まり、to 不定詞を用いたほぼ同義の単文に)

- I warned him against working too hard.
(I warned him で始まり、to 不定詞を用いたほぼ同義の文に)

- It was careless of you to forget your password.
(You were で始まり、to 不定詞を用いたほぼ同義の文に)

-
4. This is a good TV program. Children should see it.
(2文を、This is で始まり、不定詞を用いた1文に)
-
5. This apartment is so large that his family can live in it.
(enough to ~を用いたほぼ同義の単文に)
-

B Free Writing

Think about what you do at the post office. Write two sentences describing two things you do at the post office. Use a different form of to + the infinitive for each sentence.

BACKGROUND

【世界初の郵便ポストと郵便切手】

今日、日本では円柱型の赤い郵便ポストはめったに見かけなくなりましたが、イギリスでは古い郵便ポストの多くが今も現役です。そしてこれらは、次のような飾り文字 (cipher) によって、製造年代を特定することができます。例：① V R → Victoria Regina(1837-1901)、② E VII R → Edward VII Rex(1901-1910)、③ G VI R → George VI Rex(=king)(1936-1952)、④ E II R → Elizabeth II Regina(=queen)(1953 ~)

また世界最初の郵便切手「ペニー・ブラック」発行直後に、青色の2ペンス切手「ペンス・ブルー」(Two Penny(Pence) Blue) も同じデザインで発行されました。興味深いのは、どちらも最初は、現代の切手のような「目打ち」(ギザギザ (perforation)) のない240面印刷のシートであったことです。切り離しに便利な目打ちは、日本で最初の切手「竜文切手」にも入っておらず、1872年(明治5年)から目打ちがついた切手が発行されるようになりました。

